山崎窯南遺跡

大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事に伴う発掘調査

備前市埋蔵文化財調査報告 10
岡山県 備前市教育委員会 2013

備前市埋蔵文化財調査報告10

山崎窯南遺跡

大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事に伴う発掘調査

2013

備前市教育委員会

序

本書は、備前市浦伊部に所在する山崎窯南遺跡の発掘調査報告です。この発掘調査は、大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事に伴う発掘調査で、平成21年度に工事立会を行い、平成23年度に全面調査を実施しました。

今回の調査では、多数のピットや土坑と共に、柱穴列を確認しました。確認した遺構の時期は、７世紀末から８世紀初頭です。周辺には、南北朝時代の備前焼窯跡である山崎古窯跡をはじめ、中世の備前焼窯跡が複数ありますが、集落跡はあまり見つかっていませんでした。そのため、今回の調査は、この地域における人々の生活の歴史を知る上で貴重な成果となりました。また、今回の調査区は片上湾から直線距離で約１kmの位置にあることから、美作国の国津である方上津との関連も想定されます。

本書が、この地域の歴史解明の資料として、また文化財保護の一助として活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたりましては、大阪ガス株式会社をはじめ、岡山県教育委員会、ならびに地元の方々に温かいご理解と多大なご協力を賜りました。記して厚くお礼申し上げます。

平成25年３月

備前市教育委員会
教育長　土　山　球　一

例 言

1　本書は、大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事に伴い、大阪ガス株式会社の依頼を受けて備前市教育委員会が発掘調査を実施した、山崎窯南遺跡の調査報告書である。

2　山崎窯南遺跡は、備前市浦伊部247-1に所在する。

3　平成22年２月９日に工事立会を行い、平成23年度に全面調査を実施した。調査期間は平成23年９月５日から11月４日である。調査面積は、平成21年度が0.5㎡、平成23年度が61.26㎡である。遺物整理および報告書の作成は、備前市埋蔵文化財管理センターにおいて、平成23年度と平成24年度に実施した。

4　調査は、平成21年度は石井啓が、平成23年度は石井指導のもと重根弘和が担当した。

5　本書の執筆は調査担当者が行った。全体の編集は石井指導のもと重根が行った。

6　遺物の整理作業と実測は、赤井夕希子、東山智子、米井里佳、松田康太、塚本哲の協力を得た。

7　図面の清書は、赤井夕希子、塚本哲、調査担当者が行った。

8　写真撮影は、調査担当者が行った。

9　土器の年代については、島田拓氏（上郡町教育委員会）、石器の鑑定については、米田克彦氏（高知県教育委員会文化財課）から教示を得た。

10　本書に関係する遺物・実測図・写真等は、備前市埋蔵文化財管理センター（備前市伊部974-3）に保管している。

凡 例

1　本書に用いた高度値は海抜高であり、方位は平面直角座標第Ⅴ系の座標北である。また、遺構配置図等の座標値および抄録に記載した経緯度は、世界測値系に準拠した。

2　本書記載の遺構・遺物の図には個別にその縮尺率を記しているが、基本的には次のとおり統一した。

　遺構：１/40

　土器：１/４

　石器：１/３・１/２

　鉄器：１/３

3　遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠した。

4　第１図に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図「片上」「和気」を複製し、加筆したものである。

5　本書における時期区分は、一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために世紀を併用した。

目 次

序
例言
凡例
目次
第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
第２章　調査に至る経緯と調査の経過 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査および報告書作成の経過 …… 3
　第３節　調査および報告書作成の体制 …… 4
　第４節　日誌抄 …… 4
第３章　調査の概要 …… 5
　第１節　調査区の概要 …… 5
　第２節　遺構・遺物 …… 7
第４章　総括 …… 13
観察表 …… 14
抄録
図版

図版目次

図版１　　調査区全景（北西から）
図版２－１　柱穴列１から片上湾の方向を望む（南西から）
　　－２　調査区から山崎古窯跡を望む（南東から）
　　－３　出土遺物

図目次

第１図　調査地周辺の地形と遺跡（１/50,000）…… 2
第２図　調査区位置（１/500）…… 5
第３図　遺構配置（１/80）…… 6
第４図　東壁土層（１/80）・ピット出土遺物（１/４・１/３）…… 7
第５図　溝１断面（１/40）・出土遺物（１/４）…… 8
第６図　土坑１～４（１/40）・出土遺物（１/４）…… 9
第７図　柱穴列１（１/40）・出土遺物（１/４）…… 10
第８図　基盤層出土遺物（１/４・１/３）…… 11
第９図　包含層・排土出土遺物（１/４・１/２）…… 12

表目次

土器　観察表 …… 14
石器　観察表 …… 17
鉄器　観察表 …… 17

第１章　遺跡の位置と環境

山崎窯南遺跡（276）の位置は、龍王山の東向きに突出する丘陵先端部の南側裾部、JR赤穂線伊部駅より直線距離で南東約850ｍほど向かった地点である。現在の行政区分では、岡山県備前市浦伊部と呼ばれる地域にあたる。

山崎窯南遺跡の所在する備前市は岡山県の南東部の位置にあり、兵庫県赤穂市と隣接する。この地域では中生代の流紋岩、石英安山岩、石英斑岩等の火山岩類が主に分布し、一部に古生層も含まれる。周辺地域は断層谷によっていくつかの地塊に分断されており、谷は直線的な方向性が認められるものが多い。特に流紋岩の産地では、直線状の谷の発達が著しい。この中で海に近い谷は、海面が上昇した際に沈水し、溺れ谷となり、多島海となった。片上湾はその典型である。穂浪、片上、浦伊部、久々井、鶴見などには谷沿いに細長く開けた平坦地が窺える。これらの地点は、海水面上昇時の浸水が緩やかであり、侵食よりも堆積作用が優勢であったことから生じ埋積谷である。なかでも浦伊部は堆積が深く、底土は近年の備前焼原料粘土として利用されている。年平均気温は15度前後、年降水量は1100～1200㎜程度の温暖寡雨地帯であり、典型的な瀬戸内型気候に属する地域である。

現状で確認されているなかで、備前市において最も古い人々の暮らしの痕跡を探し求めると、旧石器時代まで遡る。亀井戸遺跡（330）確認調査の際にサヌカイト製ナイフ形石器及び翼状薄片が見つかっており、これらの遺物は旧石器時代に属するものである。ただし、現代水田造成による撹乱が著しい地点において、土師器、備前焼等とともに見つかった資料であるため、他地点から混入した可能性も否めず、検討の余地が残る。続く縄文時代になると、長縄手遺跡（248）で３軒の竪穴住居のほか、多数の遺構が検出されている。時期は縄文時代中期末である。県内では数少ない縄文時代の集落跡として注目を集めた。このほか、船山遺跡等で遺物が採集されているが、いずれも遺構に伴うものではない。弥生時代前期後半になると、船山遺跡で竪穴住居、大溝等が確認されている。この集落は中期中頃まで継続し、弥生時代終末期の遺構も存在する。古墳時代に入ると全長68ｍを超える前方後円墳長尾山古墳をはじめ、31面の銅鏡が見つかった丸山古墳や、石枕がよく知られる天神山古墳など、当時の社会状況を考える上でも重要な古墳が築かれていく。

律令制下の備前市域は、当初邑久郡に属していたようである。後に郡の新設、改称等があり、『和名抄』の記載における和気郡坂長郷、香止郷が備前市域にあたる。山崎窯南遺跡が所在する地点を含む香止郷内の平野は、白川天皇の勅旨田となり、次の堀川天皇の時、院領として立荘された。これが香登荘である。香登荘はやきものの産地として広く知られてきた。和歌山県西牟婁郡日置川町長壽寺境内で見つかった大甕には、「歴応五年」の紀年銘とともに「備前國什人　香登御庄□」の銘を持つ。また、九州探題となった今川了俊の紀行『道ゆきぶり』（応永４年　1371年成立）には、「さてかがつといふさとは、いえごとに玉だれのこがめといふ物を作ところなりけり」と記載があり、室町期に成立したとされる『桂川地蔵記』の中でも、茶を納める壺の産地として「香香登、信楽、瀬戸」と地名があげられている。この他に重要な記載がある書物として、灯心草庵所蔵文書に『兵庫北関入船納帳』と称する帳面がある。ここには多くの「ツホ」等を積載した船が、浦伊部の港より１年間に21度にわたり兵庫北関に入港したと記載される。これは、文安２年（1445年）の記録である。

香登荘近辺におけるやきもの生産は、窯の所在を移動しながら引き継がれていく。そして、一時は存亡の危機に瀕したこともあるようだが、21世紀にいたる現在においてもこの地において、備前焼としてその生産は続く。

本章は岡山県教育委員会2002「山崎古窯跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』167の第２章を加筆訂正したものである。

第１図　調査地周辺の地形と遺跡（１/50,000）
岡山県教育委員会 2003『改訂 岡山県遺跡地図』〈第９分冊 東備地区〉より作成

第２章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

大阪ガス株式会社は、平成21年５月19日に、兵庫県姫路市から岡山県岡山市へ至る天然ガス高圧パイプラインの建設を行うと発表した。パイプラインは姫路市を起点に、兵庫県太子町、たつの市、相生市、赤穂市を経由して岡山県に入り、備前市、瀬戸内市を通って岡山市南部まで結ぶ。総延長は約85kmに及ぶ。

パイプライン建設計画の中で、06立坑の工事範囲が周知の埋蔵文化財包蔵地（山崎窯南遺跡）の範囲内であることが分かった。工事に入る前に、この地点の土質調査が行われることになり、文化財保護法第93条の規程により、平成22年１月19日付けで大阪ガス株式会社から岡山県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘の届出が提出された。この届出に対して岡山県からは工事立会の対応が妥当との通知があり、平成22年２月９日に行われたボーリング調査に備前市教育委員会が立会した。立会時には須恵器と土師器が見つかり、遺構面が検出できる可能性が高い土層を確認した。

該当地の本工事に入るあたり、文化財保護法第93条の規程により、平成23年９月１日付けで大阪ガス株式会社から岡山県教育委員会教育長あてに発掘調査の届出が提出され、９月９日付けで岡山県から工事着手する前に発掘調査を行うように通知があった。大阪ガス株式会社は備前市教育委員会と発掘調査の実施に関して協定を締結し、備前市教育委員会は法第99条の規程により発掘調査に着手した。

第２節　調査および報告書作成の経過

平成21年度

平成22年２月９日に工事立会を行った。立会時には土器が見つかり、遺構面が検出できる可能性が高い土層を確認した。本工事に入る前に発掘調査を実施し、記録保存を行う必要があることが分かった。

平成23年度

平成23年９月12日から調査を開始した。表土は重機で掘削し、除去した。旧耕作土と床土を人力で掘削した後、遺構面を確認した。遺構検出時や掘削時に見つかった土器の時期は、多くは７世紀末から８世紀前半であった。調査区東側に側溝を設けた。遺構面の調査が終了した後、さらに下層に遺構が無いか確認するため人力で掘削を行ったが、遺構は確認できなかった。10月31日に発掘用資材を搬出し、調査を終了した。11月14日からは遺物整理作業を開始した。

平成24年度

４月から備前市埋蔵文化財管理センターで報告書作成作業を進めた。出土遺物の量は、遺物整理箱数で換算すると13箱であった。今回見つかった土器の時期については、島田拓氏（上郡町教育委員会社会教育課文化財係）から教示を得た。

第３節　調査および報告書作成の体制

備前市教育委員会
　教育長　　土山球一
　教育次長　　竹中史郎（平成24年３月まで）
　教育次長　　岩崎　透（平成24年４月から）
生涯学習課
　課　長　　末長章彦

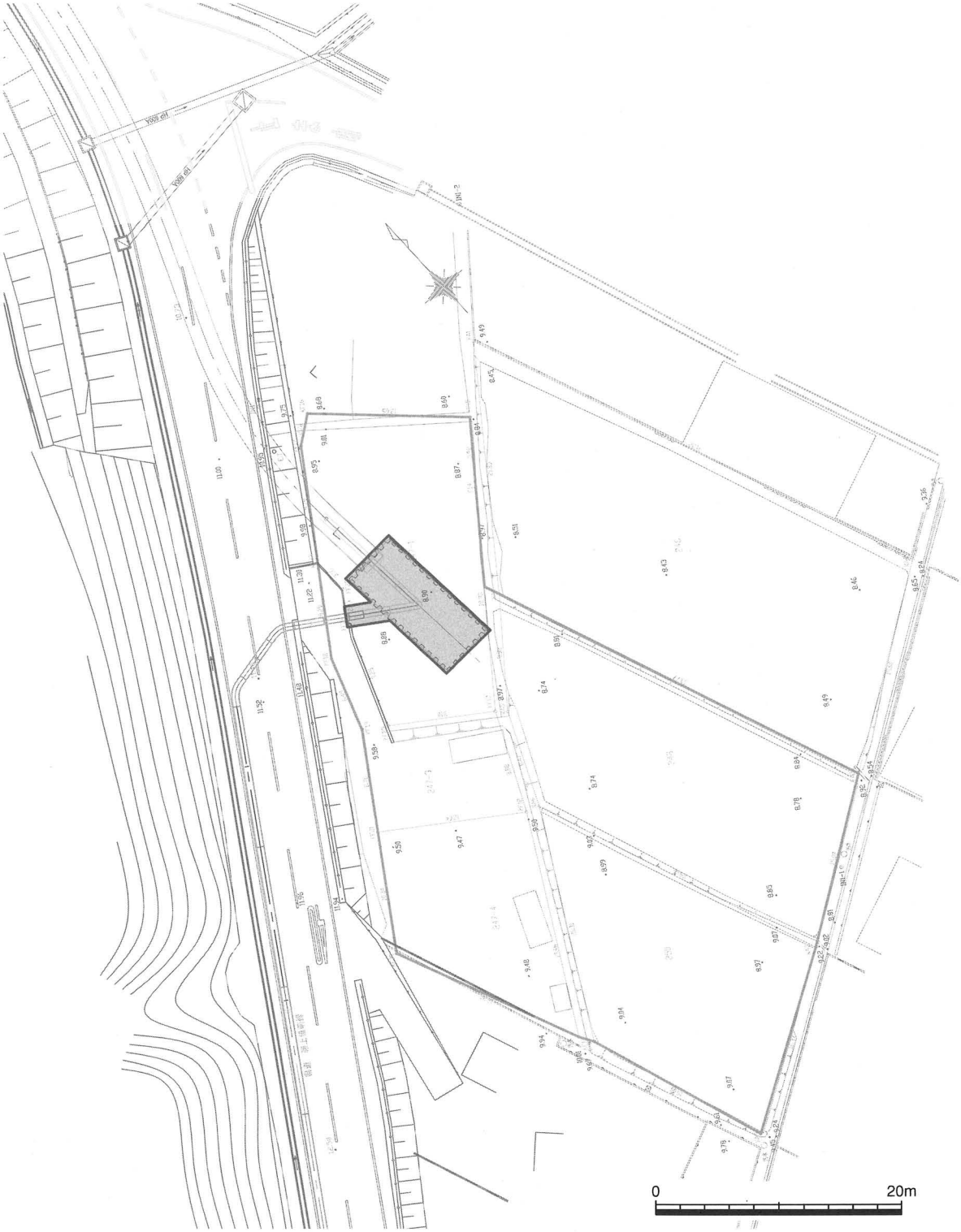
文化係
　係　長　　石井　啓（調査、報告書担当）
　主　査　　福本浩子（平成23年３月まで）
　主　査　　山本久美子（平成23年４月から）
　主　査　　重根弘和（調査、報告書担当）
　　（平成22年４月から）

第４節　日誌抄

平成22年（2010年）
　２月９日（火）ボーリング調査に伴う工事立会。
平成23年（2011年）
　９月５日（月）調査準備。
　９月12日（月）調査開始。重機による表土掘削。
　９月13日（火）調査区壁清掃。測量杭設置。
　９月14日（水）調査区壁清掃。調査区南深掘り部清掃。遺構検出開始。
　９月16日（金）遺構検出。造成土掘削。
　９月22日（木）側溝掘り下げ。
　９月26日（月）造成土掘削。
　９月27日（火）造成土掘削。
　９月28日（水）遺構検出。側溝掘り下げ。
　９月29日（木）側溝掘り下げ。
　10月３日（月）遺構検出。
　10月４日（火）遺構検出。
　10月６日（木）遺構検出。
　10月11日（火）遺構検出。遺構掘り下げ。
　10月12日（水）遺構検出。遺構掘り下げ。
　10月13日（木）遺構掘り下げ。測量。
　10月17日（月）遺構掘り下げ。写真撮影。調査区測量。地形測量。
　10月19日（水）遺構掘り下げ。測量。柱穴列確認。
　10月20日（木）遺構掘り下げ。測量。写真撮影。
　10月21日（金）遺構掘り下げ。測量。写真撮影。調査区清掃。土嚢片付け。
　10月24日（月）調査区清掃。写真撮影。土嚢片付け。シート片付け。
　10月25日（火）調査区全景写真撮影。下層掘り下げ。
　10月26日（水）遺構検出。下層掘り下げ。
　10月27日（木）遺構検出。下層掘り下げ。
　10月31日（月）遺構検出。下層掘り下げ。発掘用資材撤収。　調査終了。
　11月４日（金）発掘用資材片付け終了。
　11月14日（月）遺物整理作業開始。
平成24年（2012年）
　４月２日（月）報告書作成開始。
平成25年（2013年）
　３月８日（金）報告書作成終了。

第３章　調査の概要

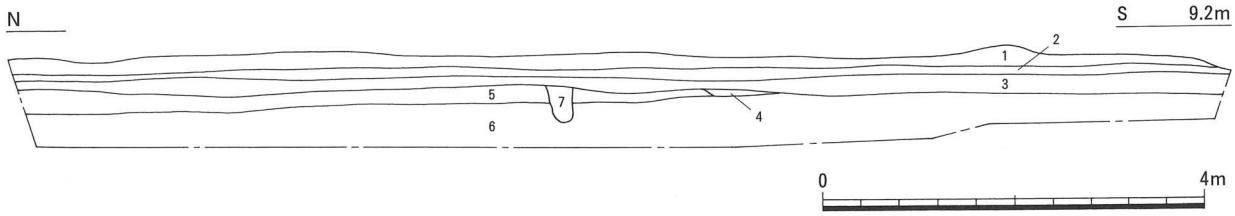
第１節　調査区の概要



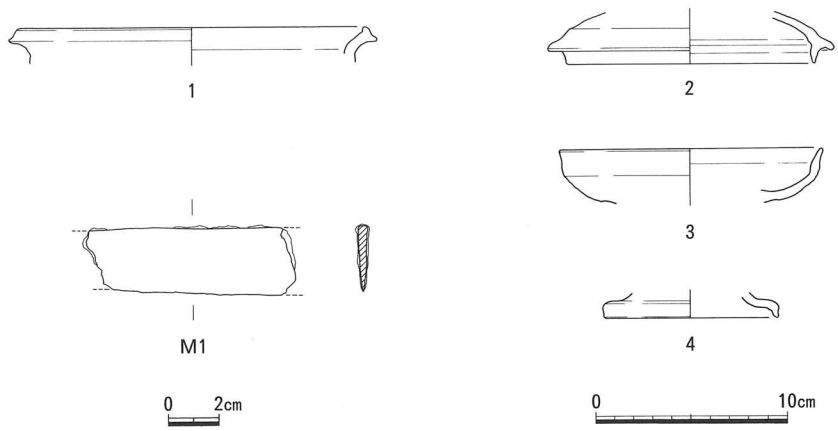
第２図　調査区位置（１/500）

X-140668
X-140670
X-140672
X-140674
X-140676
X-140678
X-140680
Y-15272
Y-15270
Y-15268
Y-15266
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
柱穴列１
土杭１
土杭２
土杭３
土杭４
溝１
8.6m
8.5m
0
4m

第３図　遺構配置（１/80）



1　暗青灰色砂質土　※現代耕作土
2　褐色砂質土　※上面鉄分沈着　床土
3　黄色砂質土　※造成土
4　灰白色砂質土
5　暗黄褐色砂質土　※基盤層
6　黄褐色砂質土　※小石～拳大の石を多く含
7　褐灰色砂質土



第４図　東壁土層（１/80）・ピット出土遺物（１/４・１/３）

山崎窯南遺跡は、龍王山南側から東側裾部に広がる遺跡である。今回調査対象となった地点は、龍王山南側裾部に広がる畑地の一角にあたり、調査区の面積は61.26㎡である。地表面の標高は約９ｍである。現代耕作土とその床土層、そして耕作面を作る際の造成土を除去すると、遺構面が確認できた。遺構面は現地表面からは約40㎝下、標高約8.6ｍ前後の地点に広がる。遺構面は南東から北西に向かって標高が高くなる。標高が高くなるにともない、遺構密度も高くなる傾向があった。

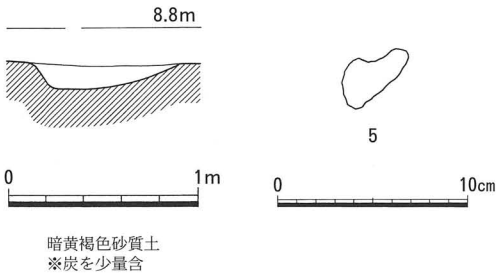
調査区北東端で、建物の一部である可能性が高い柱穴列を確認した。埋土からは古代（７世紀末から８世紀初頭）の須恵器が見つかった。このほか、土壙や溝を検出した。それぞれの遺構から見つかった土器は、ほとんどが古代のものであった。

さらに下層に遺構が無いか確認のため標高８ｍの地点まで掘り下げたが、遺構は確認できなかった。

第２節　遺構・遺物

ピット（第３・４図、図版１）

ピットを複数検出した。Ｐ１～３は建物の一部である可能性が高いが、他は性格不明である。**１**・**３**はＰ５、**２**はＰ６、**４**はＰ７、**Ｍ１**はＰ４で検出した。



第５図　溝１断面（1/40）・出土遺物（1/４）

１は弥生土器の甕である。口縁部の細片である。全体に風化が著しく、器表面の調整痕は不明瞭である。胎土中に砂粒を多く含む。赤みが強い褐色の粒が目立つ。２は古墳時代後期の須恵器の蓋である。細片のため、口径については不確かである。胎土中に白色粒を多く含む。３は須恵器の杯である。７世紀末から８世紀初頭のものか。４は須恵器の高杯である。脚裾部の細片である。Ｍ１は鉄製品である。両端が破損しており、全体の形状は不明である。刃がついており、残存部の形状から考えると、おそらく鎌の破片ではないだろうか。

溝１（第３・５図、図版１）

調査区の西側、突出した調査区の付け根付近で検出した。南北方向に延びる幅約80㎝、深さ約20㎝の溝である。埋没後にＰ１が掘削されているため、柱穴列１よりも時期は古い。埋土中には、炭を少量含む。

埋土掘削中に５を検出した。５は土師器である。甑の把手の破片か。このほか、図化できなかったが、須恵器の細片を確認している。細片しか確認できなかったため、出土遺物から時期を特定することは難しい。埋没状況や他の遺構との関係から、古墳時代後期から古代と推測する。

土坑１（第３・６図、図版１）

調査区西端、南寄りの地点で検出した。遺構の西側は調査区外となる。長さは84㎝で、深さは14㎝である。

土器等の遺物は確認できなかった。

土坑２（第３・６図、図版１）

調査区西端、中央やや南寄りの地点で検出した。土坑１の北約1.2ｍの位置である。遺構の西側は調査区外となる。長さは約１ｍで、深さは14㎝である。

埋土掘削時に６を確認した。６は須恵器の杯である。時期は７世紀末から８世紀前半のものである可能性が高いが、細片のため不確定である。このほか、土師器の細片が見つかった。

土坑３（第３・６図、図版１・２）

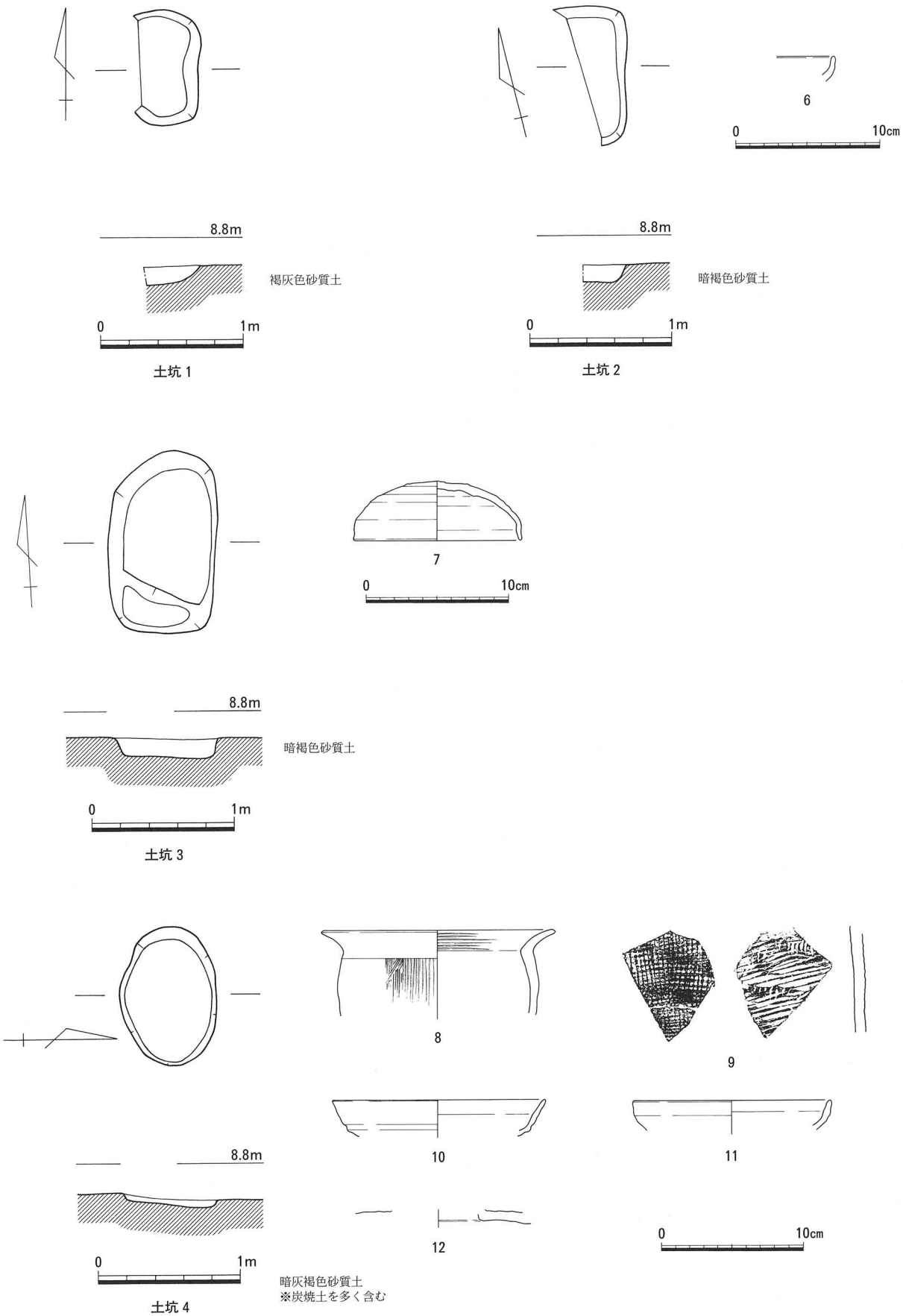
調査区西端、中央付近で検出した。土坑２の北約30㎝の位置である。長さ1.3ｍ、幅75㎝である。底面の南西端が一段低くなる。

須恵器蓋７を確認した。外面頂部やや下においてヘラケズリの痕跡が観察できるが、そのヘラケズリは頂部まで及ばない。時期については、口径や外面の調整痕の特徴から、古墳時代末から古代初頭と判断した。このほか、土師器の細片が見つかった。

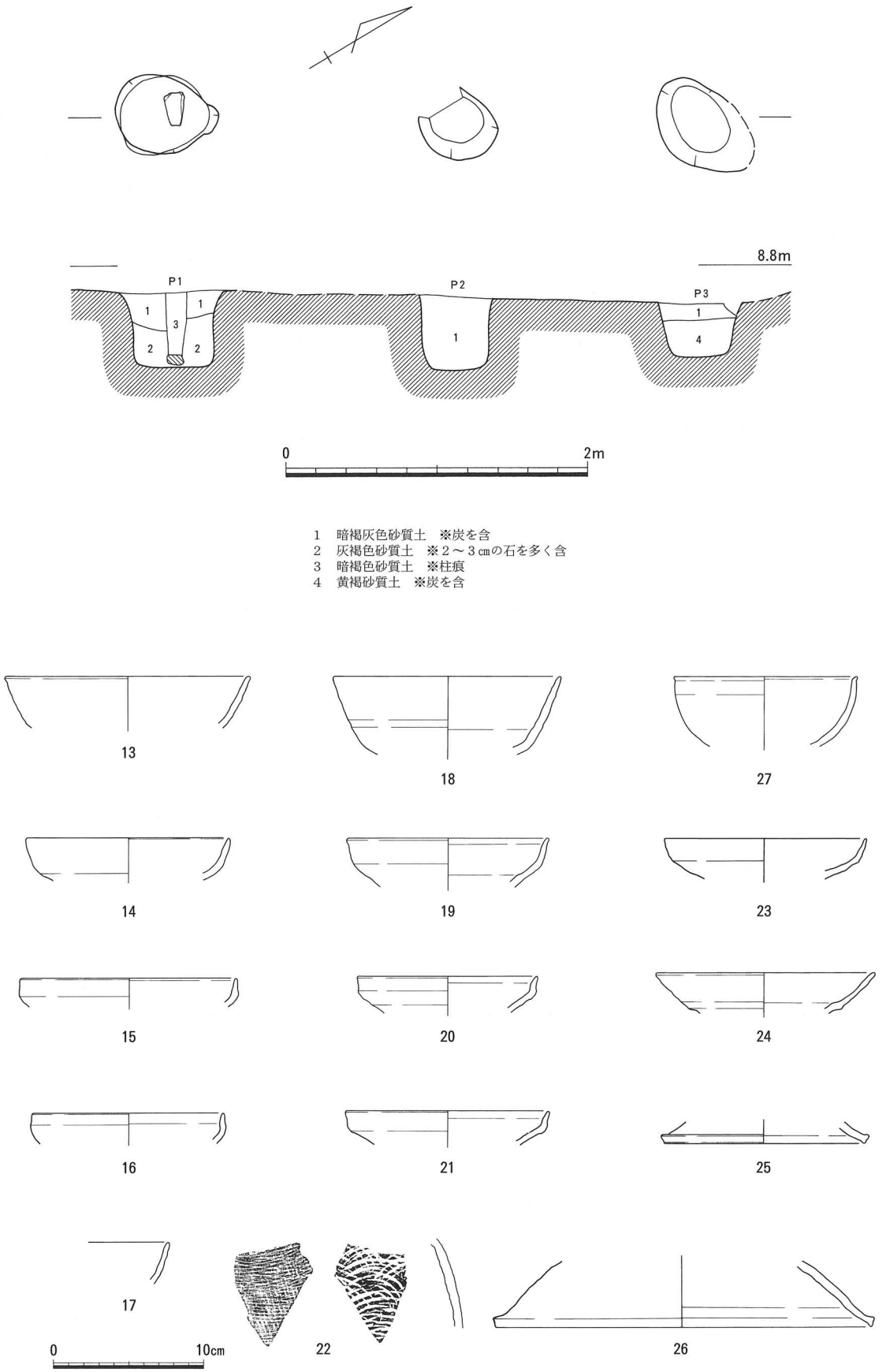
土坑４（第３・６図、図版１）

調査区西端、北寄りの地点で検出した。溝１の東約30㎝の位置である。埋土中には大量の炭と焼土を含んでいたが、基盤層に被熱の痕跡は確認できなかった。

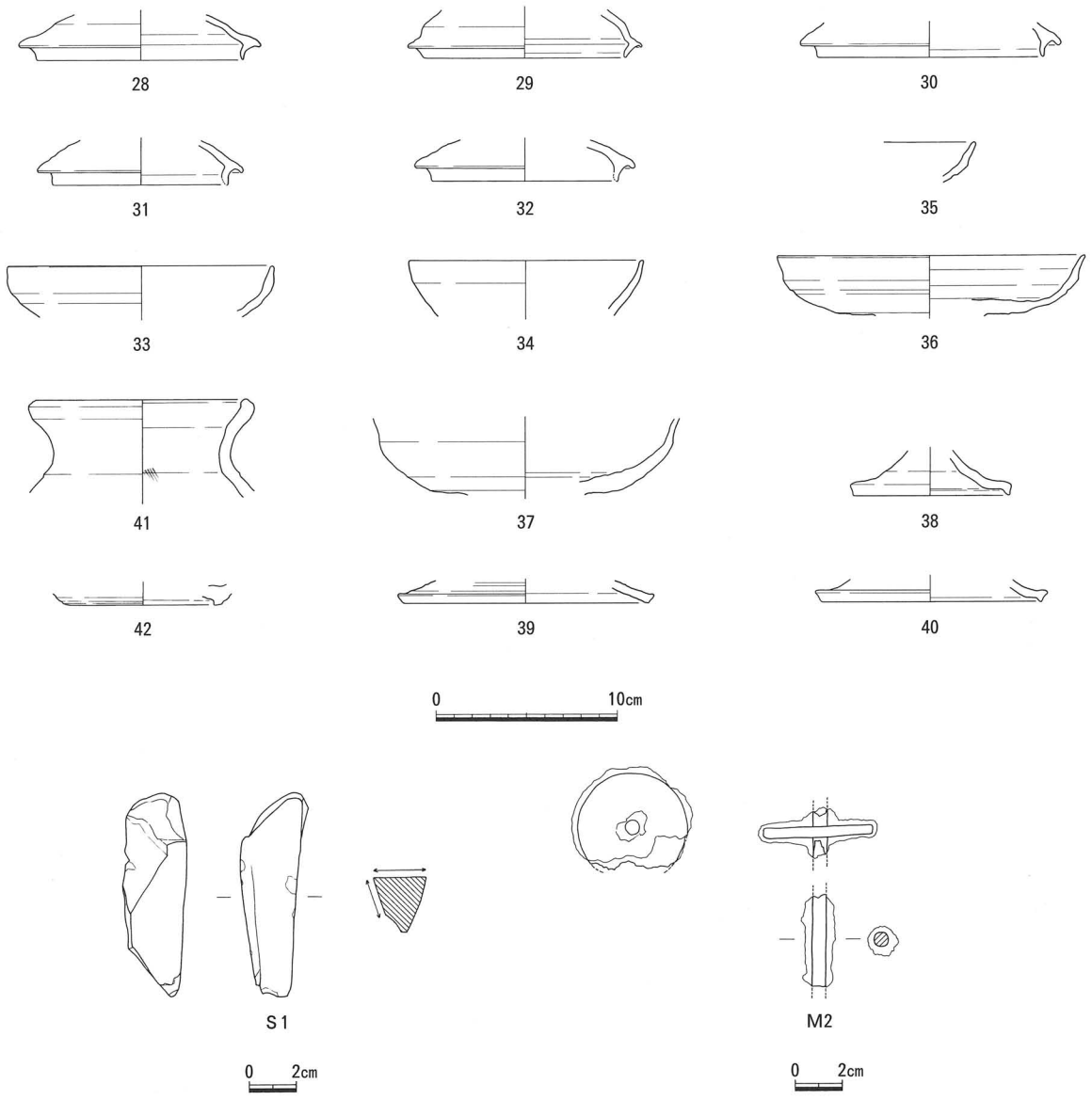
埋土掘削時に、土師器甕８、須恵器甕９、高杯10、杯11、横瓶12を確認した。時期は古墳時代末から古代初頭である。



第６図　土坑１～４（1/40）・出土遺物（1/4）



第７図　柱穴列１（１/40）・出土遺物（１/４）



第８図　基盤層出土遺物（１/４・１/３）

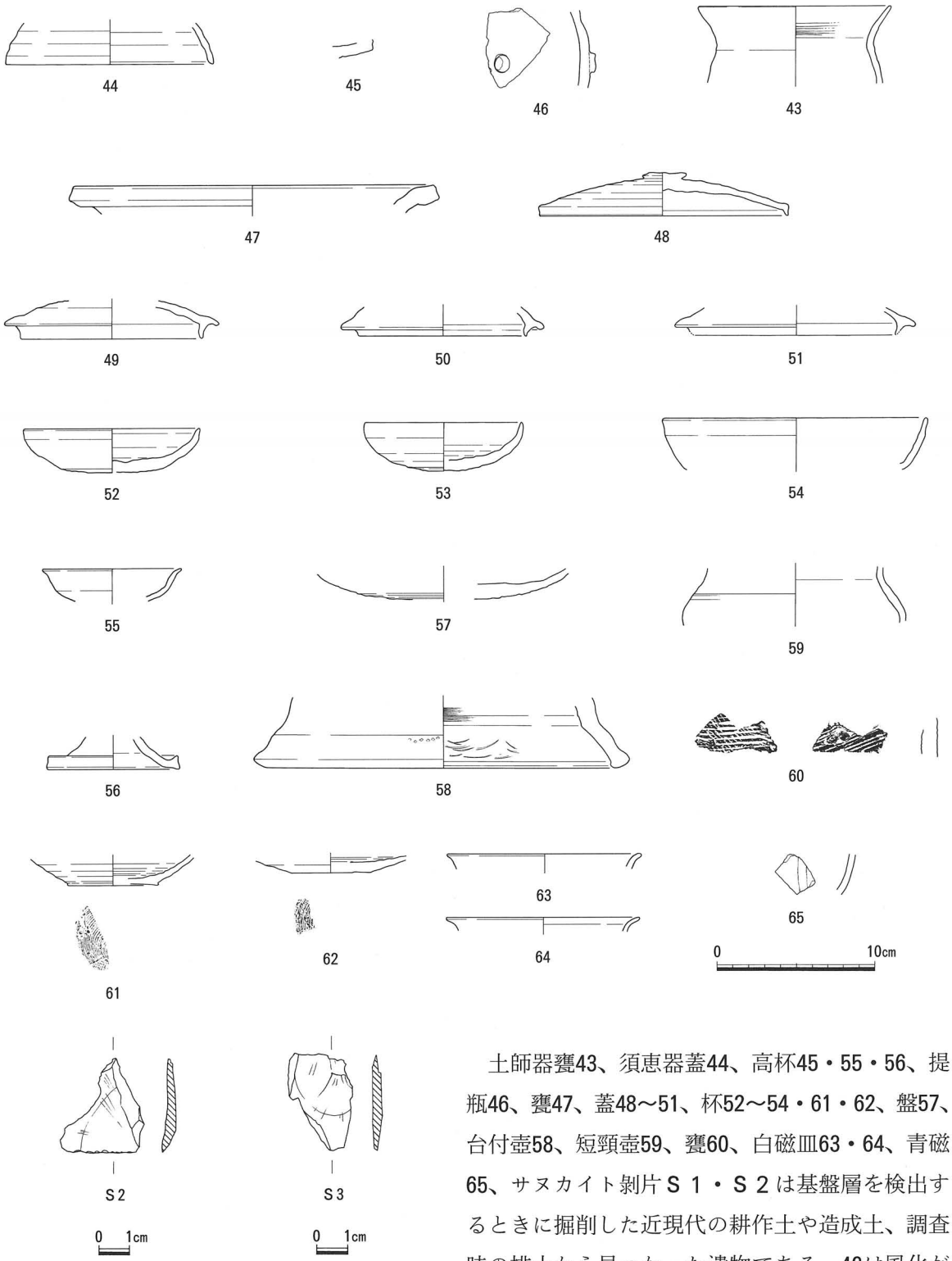
柱穴列１（第３・７図、図版１・２）

調査区北西端で検出した。土坑４の北西約70cmの位置である。溝１埋没後に掘削された遺構である。Ｐ１の埋土を観察すると、明瞭に柱痕が残っているのが観察できた。また床面付近において根石を検出した。深さは約50cmである。柱穴列１は調査区外北西に延びる建物の南東端の一部と推測する。

Ｐ１で須恵器杯**13**～**16**、**20**・**21**、Ｐ２で須恵器杯**17**・**18**、須恵器高杯**23**～**26**、土師器杯**27**、Ｐ３で須恵器杯**19**、須恵器甕**22**を確認した。**23**や**24**は古墳時代末から古代初頭のものであるが、その他は古代（７世紀末から８世紀初頭）のものが多い。遺構の時期は７世紀末から８世紀初頭と判断した。

遺構に伴わない遺物（第８・９図、図版２）

基盤層である第５層を掘削時に須恵器蓋**28**～**32**、杯**33**・**34**・**42**、高杯**35**～**40**、壺**41**、砥石**Ｓ１**、鉄製紡錘車**Ｍ２**が見つかった。**28**は外面に自然釉が付着する。**Ｓ１**は２面使用痕がある。堆積岩系の石材を利用し、持ちやすいように加工されている印象を受けた。



第９図　包含層・排土出土遺物（１/４・１/２）

土師器甕43、須恵器蓋44、高杯45・55・56、提瓶46、甕47、蓋48～51、杯52～54・61・62、盤57、台付壺58、短頸壺59、甕60、白磁皿63・64、青磁65、サヌカイト剥片Ｓ１・Ｓ２は基盤層を検出するときに掘削した近現代の耕作土や造成土、調査時の排土から見つかった遺物である。43は風化が顕著で、器表面はほとんど剥離している。口縁部内面に一部ハケの痕跡が残る。45は脚の接合部に沈線状のくぼみが巡る。46は提瓶の肩部の破片である。突起物の付け根周囲に自然釉が比較的多く付着する。57は軟質で、外面に脚が剥離した痕跡が明瞭に残る。58は台付壺の脚部と推測した。内外面にタタキ工具の痕跡が残る。65は龍泉窯系青磁の小片である。小片のため、傾き等は不確かである。遺構に伴わない遺物は、７世紀前半と７世紀末から８世紀初頭の時期のものが多い。

第４章　総 括

今回の調査では、柱穴列を１、土坑を４、溝を１、性格不明のピットを複数検出した。出土遺物の中で最も古いものには、弥生時代の土器がある。サヌカイトの剥片もおそらく同時期のものである。弥生土器は摩滅が著しい上に細片であるため、他の場所からの混入したものである可能性が高い。周辺に集落等の遺跡があるのかもしれないが、今回の調査区内では、弥生時代と特定できる遺構は確認できなかった。

遺構内から見つかった遺物の時期を見ると、古墳時代末から古代初頭（７世紀前半）と古代前半（７世紀末から８世紀初頭）のものが目立つ。調査区内は南東から北西に向かって地形が高くなり、遺構密度も濃くなる傾向がある。柱穴列１は、おそらく主軸を北から東へ約30度振った建物の一部である。出土遺物の時期は古代（７世紀末から８世紀初頭）であった。遺跡の中心は調査区の北西に広がる可能性が高い。

調査地は現在の片上湾の海岸線から約１㎞の地点にあたる。調査区の所在する浦伊部は江戸時代に新田開発が行われた（いきいき浦北2012）。新田開発が行われる以前は、海岸線が現在よりも内陸に入っていたと想定できる。調査地点は、非常に海岸線に近い。

片上湾の奥には、天然の良港である方上津が開かれていた（岡山県1989）。方上津が文献にはじめて登場するのは、平安時代前期の「藤原保則伝」（『続群書類従』所収）である（和気郡史刊行会2002b）。藤原保則は貞観８年（866）から10年間にわたって備中介、備中守、備前権守を歴任した。その任期を終えて帰京しようとしたときの様子を記録した部分に、方上津の記載がある。藤原保則が寛平７年（895）に亡くなっていることから、その直後に成立した文献と推測されている。

延喜５年（905）に編纂された『延喜式』には、美作国から京に送られる雑物は方上津に運ばれ、そこから海路で与等津（淀津）まで送られたと記載がある（岡山県1989）（和気郡史刊行会2002b）。美作国の調の雑物（絹・糸・綿・布以外）は吉井川の水運を利用して下り、和気町付近で陸揚げして方上津へ運ばれたと想定されている（和気郡史2002a）。方上津は古代そして中世において、備前東部や美作の物資を積み出す瀬戸内の要港だった（和気郡史刊行会2002b）。なお、方上が片上と表記されるようになるのは、室町時代後期になってからのことである（和気郡史刊行会2002b）。

山崎窯南遺跡の位置は、片上湾と非常に近い。方上津との関連も想定できる位置関係にあり、今回検出した遺構の時期は方上津が文献で確認されている時期よりも古い。調査区北西の山林の中には塚状の高まりが複数確認でき、古墳群が存在する可能性がある。今回対象となった調査区の範囲は非常に狭いものではあったが、浦伊部や片上の成り立ちのみならず、当時の物流や交通を考える上で貴重な成果を得ることができた。

参考文献

いきいき浦北　2012　『わがまち浦伊部』
岡山県　1989　『岡山県史』第３巻　古代Ⅱ
和気郡史刊行会　2002a　『和気郡史』通史編　中巻Ⅰ
和気郡史刊行会　2002b　『和気郡史』通史編　中巻Ⅱ

土器 観察表

掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	器種	計測値（cm） 口径	底径	器高	色調 外	内	断	胎土	焼成
1	53	P5		弥生	甕	18			にぶい黄橙 10YR6/4 口縁：褐灰 10YR4/1	浅黄橙 10YR8/4	灰黄褐 10YR5/2	2mm～4mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	良
2	19	P6		須恵器	蓋	12.9			灰白 2.5Y7/1	灰 N6/	黄褐 2.5Y5/3	2.5mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
3	36	P5		須恵器	杯	13.6			灰 N6/	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
4	48	P7		須恵器	高杯		9		灰白 5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	灰白 10YR7/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
5	65	溝1		土師器	甑				凸面 にぶい黄橙 10YR7/2	凹面 にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	軟
6	43	土坑2		須恵器	杯				灰白 5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	浅黄 2.5Y7/3	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
7	7	土坑3		須恵器	蓋	11.6		4.2	灰褐 7.5YR5/2	灰色 2.5Y7/1	灰 5Y6/1	3mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
8	11	土坑4		土師器	甕	16			淡赤橙 2.5YR7/4	にぶい橙 5YR6/3	淡橙 5YR8/3	3mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	良
9	58	土坑4		須恵器	甕				灰 N6/	灰 N7/	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
10	2	土坑4		須恵器	高杯	14.9			褐灰 10YR4/1 自然釉　にぶい黄橙 10YR7/2	灰 N5/	にぶい赤褐 5YR5/3	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
11	61	土坑4		須恵器	杯	13.8			灰 N5/	灰 5Y5/1	にぶい黄橙 10YR7/2	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
12	30	土坑4		須恵器	横瓶				灰 5/	灰 6/	外：灰 N4/ 内：暗赤灰 10R4/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
13	54	柱穴列1	P1	須恵器	杯	16			灰 N5/	灰 N6/	褐灰 7.5YR5/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
14	42	柱穴列1	P1	須恵器	杯	13.9			灰白 2.5Y7/1	灰白 5Y7/1	暗灰黄 2.5Y5/2	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
15	37	柱穴列1	P1	須恵器	杯	12.6			灰白 5Y7/1	黄灰 2.5Y5/1	灰黄褐 10YR6/2	3.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
16	40	柱穴列1	P1	須恵器	杯	14.3			灰 7.5Y6/1	灰 5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
17	60	柱穴列1	P2	須恵器	杯				灰 N4/	灰 N5/ 自然釉：にぶい黄橙 10YR7/3	灰白 10YR7/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
18	13	柱穴列1	P2	須恵器	杯	15			灰 7.5Y5/1 口縁部：灰白 5Y7/1	黄灰 2.5Y5/1 口縁部：黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
19	34	柱穴列1	P3	須恵器	杯	13.2			灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
20	39	柱穴列1	P1	須恵器	杯	13.4			褐灰 10YR6/1	黄灰 2.5Y6/1	にぶい黄橙 10YR7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
21	35	柱穴列1	P1	須恵器	杯	11.9			灰 N6/	灰 N7/	灰黄 2.5Y7/2	1.5mmの石 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅

土器 観察表

掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	器種	計測値（cm） 口径	底径	器高	色調 外	内	断	胎土	焼成
22	57	柱穴列1	P3	須恵器	甕				灰白 2.5Y7/1	灰白 5Y8/1	灰白 5Y7/1	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
23	4	柱穴列1	P2	須恵器	高杯	13.2			灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	灰白 10YR7/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
24	3	柱穴列1	P2	須恵器	高杯	14.4			灰 N6/	黄灰 2.5Y6/1	灰 5Y6/1	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 2mm以下の黒色粒	堅
25	46	柱穴列1	P2	須恵器	高杯		13.2		黄灰 2.5Y5/1	褐灰 10YR5/1	赤褐 10R5/3	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
26	50	柱穴列1	P2	須恵器	高杯		25		灰白 10Y8/1	灰白 10Y8/1	灰白 5Y8/1	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	軟
27	33	柱穴列1	P2	土師器	杯	12			赤 10R5/8	明赤褐 2.5YR5/8	褐灰 7.5YR6/1	3mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	良
28	17	基盤層		須恵器	蓋	11.4			浅黄 2.5Y7/3	灰白 10YR7/1	灰黄 2.5Y7/2	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以上の黒色粒	堅
29	16	基盤層		須恵器	蓋	11.1			黄灰 2.5Y6/1	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/2	4mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
30	20	基盤層		須恵器	蓋	12.4			灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	灰 5Y7/1	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
31	21	基盤層		須恵器	蓋	9.6			灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y6/1	褐灰 10YR6/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
32	22	基盤層		須恵器	蓋	10.2			黄灰 2.5Y6/1	灰白 10Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
33	41	基盤層		須恵器	杯	14.6			褐灰 5YR5/1	赤灰 2.5YR5/1	外：赤 10R5/6 内：灰 N4/	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
34	38	基盤層		須恵器	杯	12.9			灰 7.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	褐灰 10YR6/1	2.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
35	5	基盤層		須恵器	高杯				黄灰 2.5Y6/1	灰白 5Y7/1	褐灰 5YR6/1 褐灰 5YR4/1	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
36	1	基盤層		須恵器	高杯	17			灰 5Y6/1	灰 N6/	外：黄灰 2.5Y5/1 内：にぶい赤褐 2.5Y5/1 下方：にぶい黄橙 10YR7/2	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
37	6	基盤層		須恵器	高杯				灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	2mm～3mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
38	44	基盤層		須恵器	高杯		8.4		灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
39	51	基盤層		須恵器	高杯		13.6		黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y5/1	2.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
40	47	基盤層		須恵器	高杯		12.1		灰白 5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	灰白 5Y7/1	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
41	9	基盤層		須恵器	壺	11.2			灰 N6/　灰白5Y7/1	灰白 N7/	外：灰 N6/ 内：にぶい橙 5YR6/3	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
42	52	基盤層		須恵器	杯		8		灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	灰 N6/	2.5mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅

土器 観察表

掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	器種	計測値（cm） 口径	底径	器高	色調 外	内	断	胎土	焼成
43	12	包含層・排土		土師器	甕	12.4			赤 10R5/8	灰黄褐 10YR6/2	赤橙 10R6/6	3mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	軟
44	10	包含層・排土		須恵器	蓋	13.4			黄灰 2.5Y6/1	灰白 7.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
45	31	包含層・排土		須恵器	高杯				灰 2.5Y6/1	灰 6/	灰黄褐 10YR6/2	1.5mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
46	56	包含層・排土		須恵器	提瓶				灰白 2.5Y7/1	灰白 N7/	にぶい黄橙 10YR7/2	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
47	55	包含層・排土		須恵器	甕	23			黒 10Y2/1	灰黄 2.5Y7/2	褐灰 10YR5/1	3mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
48	29	包含層・排土		須恵器	蓋	15.9		2.8	灰白 2.5Y8/1	淡黄 2.5Y8/3	灰白 5Y8/1	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	軟
49	15	包含層・排土		須恵器	蓋	11.6			灰白 2.5Y7/1	灰白 5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	6mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
50	23	包含層・排土		須恵器	蓋	10.7			灰白 2.5Y7/1	灰白 10YR7/1	にぶい黄橙 10YR7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
51	18	包含層・排土		須恵器	蓋	12.8			灰 N4/	灰白 5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
52	28	包含層・排土		須恵器	杯	11.3		2.9	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y7/1	灰白 10YR8/2	2.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	軟
53	27	包含層・排土		須恵器	杯	10		3.1	灰白 7.5YR8/2	灰白 5Y7/1	灰白 10YR7/1	3mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	軟
54	8	包含層・排土		須恵器	杯	16.8			灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y8/1	灰白 5Y7/2	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
55	49	包含層・排土		須恵器	高杯	8.9			灰白 5Y7/1	灰 N7/	灰黄 2.5Y7/2	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
56	45	包含層・排土		須恵器	高杯		8.4		灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	1.5mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
57	32	包含層・排土		須恵器	盤 （高台付）				灰白 2.5Y8/2	灰白 7.5Y8/1	灰白 5Y8/1	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
58	14	包含層・排土		須恵器	台付壺か	22.2			灰白 10Y7/1	灰白 7.5Y7/1	灰白 2.5Y8/2	2mmの石 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以上の黒色粒	堅
59	24	包含層・排土		須恵器	短頸壺				灰 N5/	灰 7.5Y6/1	灰 5Y6/1 灰 N4/	1mm×1.5mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
60	59	包含層・排土		須恵器	甕				灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	外：灰 N7/ 中：にぶい橙 6/4 内：灰 N7/	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
61	25	包含層・排土		須恵器	杯		5.9		褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR6/1	灰白 5Y7/1 灰 N5/	2mmの石 1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒 1mm以下の黒色粒	堅
62	26	包含層・排土		須恵器	杯		5		灰 N6/	灰 N6/	灰 N6/	1mm以下の透明粒 1mm以下の白色粒 1mm以下の褐色粒	堅
63	63	包含層・排土		白磁	皿	12.4			灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1		堅

土器 観察表

掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	器種	計測値（cm） 口径	底径	器高	色調 外	内	断	胎土	焼成
64	62	包含層・排土		白磁	皿	12.4			灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	外：灰白 5Y8/1 内：淡黄 2.5Y8/3		堅
65	64	包含層・排土		青磁	碗				明オリーブ灰 2.5GY7/1	明オリーブ灰 2.5GY7/1	灰白 10Y8/1		堅

石器 観察表

掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	材質	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）
S1	S3	基盤層		砥石	堆積岩系（明黄褐 10YR7/6）	8.6	2.7	2.4	58.5
S2	S1	包含層・排土		RF	サヌカイト	3.2	2.8	0.4	4.1
S3	S2	包含層・排土		剥片	サヌカイト	3.2	2.1	0.3	2.1

鉄器 観察表

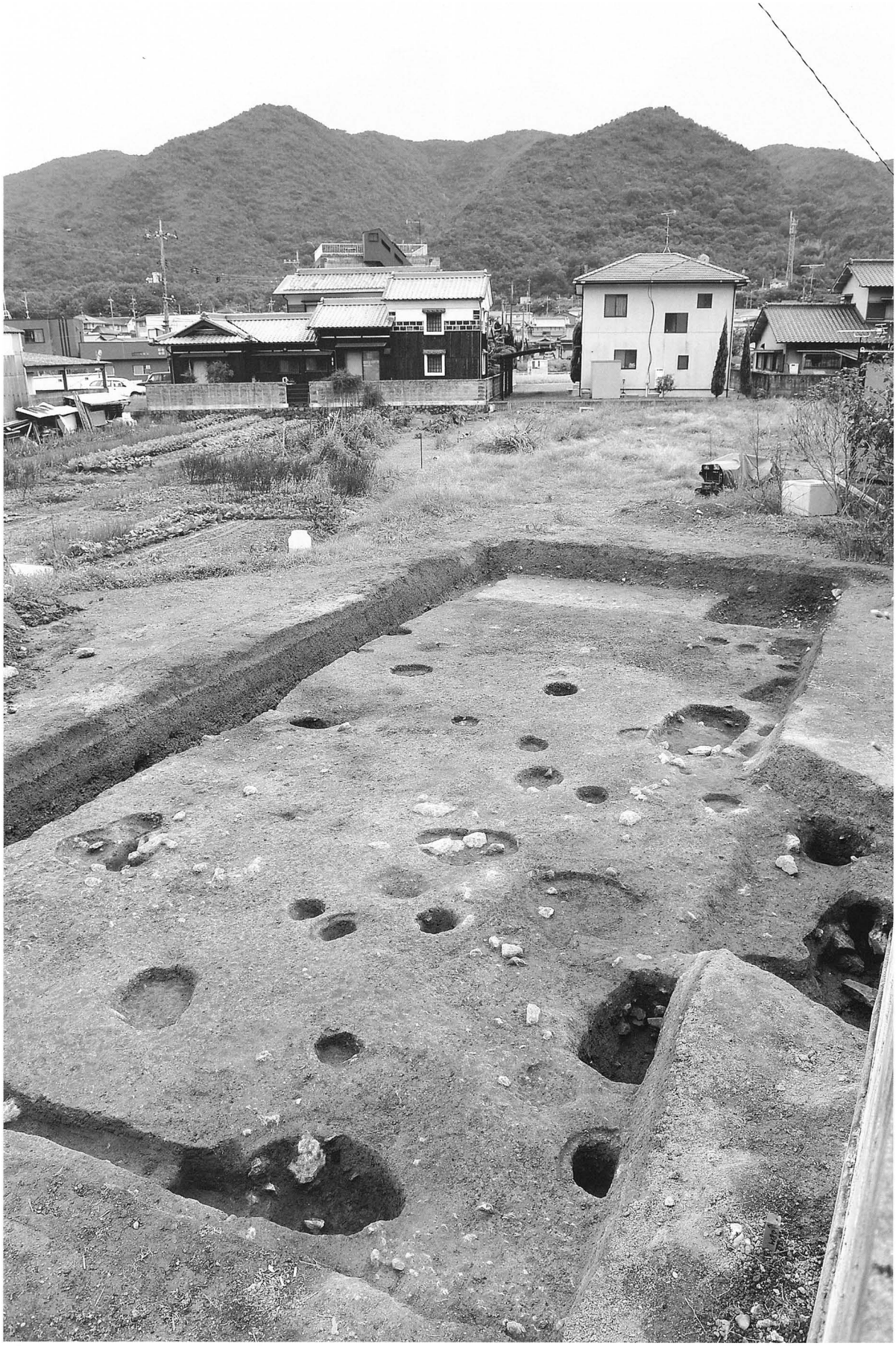
掲載番号	実測番号	遺構名	地点	種別	材質	計測値（cm） 現在長	最大長	最大厚	重量（g）
M1	M1	P4		鎌	鉄	8.4	2.7	0.5	40
M2	M2	基盤層		紡錘車	鉄	紡輪：2.1 紡茎：3.9	紡輪：4.6 紡茎：0.6	紡輪：0.4	紡輪：43 紡茎：20

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまさきようみなみいせき
書名	山崎窯南遺跡
副書名	大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	備前市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	10
編著者名	重根　弘和
編集機関	備前市教育委員会
所在地	〒705-0021　岡山県備前市西片上７　TEL 0869－64－1841
発行機関	備前市教育委員会
所在地	〒705-0021　岡山県備前市西片上７　TEL 0869－64－1841
発行年月日	西暦2013年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまさきようみなみいせき 山崎窯南遺跡	おかやまけん 岡山県 びぜんし 備前市 うらいんべ 浦伊部	33211	332110276	34° 43′ 54″	134° 09′ 59″	2011.9.5～ 2011.11.4	61.26㎡	大阪ガス株式会社による姫路・岡山ライン06立坑工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山崎窯南遺跡	集落	古代	土坑４、 柱穴列１	弥生土器、土師器、 須恵器、備前焼、 陶磁器、石器、鉄器	

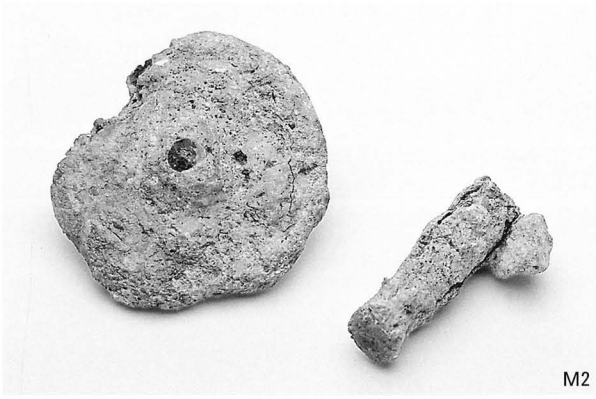


調査区全景（北西から）

図版　2

1　柱穴列１から片上湾の方向を望む（南西から）

2　調査区から山崎古窯跡を望む（南東から）



3　出土遺物

備前市埋蔵文化財調査報告10

山崎窯南遺跡

平成25年３月８日　編集
平成25年３月８日　発行

編集・発行　備前市教育委員会
岡山県備前市西片上７

印　　刷　㈱大西商店印刷部
岡山県備前市西片上62